

安養院ご縁物語り 第一回

かしわぎ びやっこう

柏木白光さんと長谷寺の縁

ただ押しの鬼

安養院には昔から様々な分野の芸術家が出入ります。三十年來のおつきあいのある創作舞踏家の長嶺ヤス子さんもその一人、喜寿を越えても、まだ激しい情熱を舞台にぶつけて踊り続けています。そんな長嶺さんが昨年のある日、柏木白光さんという女流の書家を連れてお寺に來ました。聞く

と長嶺さんの講演の案内やポスター、プログラムなどのタイトルや題字を書いている女流の書家です。私は、本堂の地下工



房で長嶺さんから頼まれた公演ポスターを作りながら、柏木さんから書にまつわる様々なお話を伺いました。

柏木さんは熊野古道や吉野、高野に広がる紀伊半島のさまざま

まな神社仏閣、祈りの地に赴き、「天と地」をテーマとしてその土地に漂う靈氣や氣風を観じて、その場で一気に書にするいうことに取り組んでいます。

今まで訪ねて作品を書き上げた所、これからいつてみたいと思う所が紀伊半島の地図上に点々と記されています。和歌山や三重、奈良、大阪の多くの古刹や神社が記されていました。総本山長谷寺は入って

佛心響悦

いません。

私は、長谷寺はこのテーマには関係ないのですか、と尋ねました。すると柏木さんは長谷寺にはぜひ行ってみたいと思うのですが、どのよう

に、三月に千葉県の豊山派のお寺さんたちが中心になって檀信徒を集め、千葉市の県民ホールで行われる予定の東日本大震災三回忌追悼と復興祈願のための聲明公演に掲げるために、安養院の大曼荼羅を貸してもらいたいとの要



望がありました。そしてその真ん中に追悼と復興を祈願して大きな書軸を掛けたいとの相談がありました。

私はそうした願いのこもった書の揮毫には柏木さんが最適だと思い、すぐに打診しました。震災直後に被災した塩竈神社で「命煌」と書いて、被災地の支援に動いていた柏木さんは、こころよく引き受けてくれました。そこで早速、ただ押しのとくに書いてもらいうように表装した白紙の大きな掛け軸も用

意しました。

しかし、ただ押しの二日前に突然に大分に住む柏木さんのご家族の方から電話があり、急病になって意識不明で緊急入院したということです。当然本山に来られるような状況ではありません。さあ困った、私に出来ることは長谷寺の観音さまに柏木さんの病氣平癒を祈ることだけでした。

幸い回復は早く、柏木さんは二月下旬に退院しました。そしてすぐに安養院の本堂で、再び頂きたいのちへの感謝と、震災犠牲者への追悼の気持ち、そして復興への希望、そうした様々な思いと祈りの心を込めて一気に筆を運び「佛心響悦」と「息災復興心願成就」の文字を双幅の大掛軸に揮毫しました。本人は生まれ変わったつもりで書きました、と思います。

三月七日、縦5メートル横1.3メートルの力強い双幅の書軸は安養院の大曼荼羅と共にホール舞台の中央に掲げられ、大迫力で舞台上に輝きます。百人の



書家・柏木白光

僧侶の聲明と読経、太鼓のすばらしい鼓動の中、二回の公演で三千人の檀信徒に見守られ、深い感銘を与えました。その軸からほとばしる文字のエネルギ、追悼と復興への思いが込められた書。私は客席でこの公演の感動に浸りながら書の持つ力とところを改めて認識しました。

追悼

柏木さんは三月中旬に長谷寺にお参りし、観音さまの御前で念願の書を書いたそうです。